なし新品種の育成によるブランドカの向上

[研究課名]農產園芸研究課(果樹担当)

[研究期間] 平成25年度~27年度

[事 業] 農林水産物の増産や販売力強化を支える研究開発事業(県費)

■ 研究の背景・目的

- 本県は古くからの赤なし産地であり、現在の主力品種である「幸水」、「豊水」を全国 に先駆けて導入し、京阪神市場において高い評価を得てきました。
- しかし、近年、全国の品種が「幸水」、「豊水」に集中するとともに温暖化の影響で九州から関東まで出荷時期が重なる等により生産者の収益性が低下しています。
- そこで、「幸水」、「豊水」に代わる品種あるいは補完する優れた品種を育成し、なし生産者の収益性を向上させるとともに、ブランド産地の維持を図ります。

■ 研究の成果

- 食味の優れた品種を育成するために、「あきづき」、「秋麗」、「王秋」、「喜水」、「香梨」、「幸水」、「豊水」などを交配親に用い約600個体の交雑実生を育成しました。
- 平成27年度までに結実した系統の果実特性を検定したところ、「秋麗」および「あきづき」を親に交配した系統の糖度が高く、「香梨」、「あたご」を親にすると大玉であるが肉質が劣りました。
- 一次選抜によって選抜した8系統は「秋麗」、「あきづき」、「幸水」、「豊水」を親に交配 した系統であり、いずれも同時期に収穫する「幸水」、「豊水」よりも糖度が高く、肉質 も同等でした(表1,写真1,2)。

■ 期待される効果、今後の展開

- 研究で得られた一次選抜系統は現在栽培されている「幸水」や「豊水」に比べて糖度が高く食味も優れていました。
- 今後は果実品質だけでなく生産性、病害虫抵抗性、生理障害発生の有無等の特性を検 定し、優れた系統を品種登録申請する予定です。
- 新品種を育成・普及することにより、本県なし生産者の収益性の向上に寄与していきます。

なし新品種の育成によるブランドカの向上

糖度が高く食味の優れたなし新系統を育成

研究の背景・目的

- ・本県の「幸水」、「豊水」は京阪神市場において高い評価を得てきた。
- ・ しかし、近年全国の品種が「幸水」、「豊水」に集中し、収益性が低下している。
- そこで、新たな品種を育成し、収益性を向上させるとともに、ブランド産地の維持を図る。

研究成果の内容

- ・食味の優れた品種を育成するために、「あきづき」、「秋麗」、「幸水」、「豊水」などを交配親に用い、約600個体の交雑実生を育成した。
- -一次選抜した系統はいずれも「幸水」、「豊水」よりも糖度が高く、肉質も勝るとも劣らない(表1,写真 1,2)。

表1 一次選抜したなし系統の果実特性(抜粋)					(平成27年度)		
系統番号 交配組合せ		収穫日	果実重g	糖度Brix	硬度lb	玉揃い	肉質
B-356	秋麗×豊水	8月10日	373. 7	11.8	4. 0	中	中
D-B3	豊水×あきづき	8月17日	278. 6	13. 4	4. 8	中	中
D-A35	豊水×あきづき	8月24日	549.8	12. 2	4. 7	中	中
D-B8	豊水×あきづき	8月28日	429.8	12. 5	4. 5	ヤ良	中
D-C1	あきづき×幸水	8月28日	377. 2	12. 9	5. 4	中	中
幸水		8月10日	486. 1	11. 2	5.6	中	中
<u>豊水</u>		8月27日	435. 9	11. 9	4. 6	中	ヤ良



写真1 豊水×あきづき (D-A35)



写真2 あきづき×幸水 (D-C1)

導入メリット

- ・「幸水」、「豊水」の二大品種に加えて新しい品種が導入されることにより、なし生産者の収益性が 向上する。
- 本県オリジナル品種の登場により、本県ブランドナシ産地の県外における認知度が向上する。

生産者の皆様へ

- ・今後の栽培試験により、収量性、病害虫抵抗性、生理障害発生の有無などの検定を経て、優れた系統を品種登録申請する予定です。
- ・優れた新品種が普及することにより、本県なし生産者の収益向上とブランド産地の維持に貢献すると考えています。

問合せ先 農産園芸研究課 果樹担当 電話 088-674-1659